

「中津川小学校の俵踊り伝承活動の取組」

1 学校名

さつま町立中津川小学校

2 学年・人数

3年生から6年生（計20人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年9月10日～9月25日（平日17:30～18:30） 校庭・体育館

令和元年9月26日（木） 発表前のリハーサル（大石神社）

(2) 発表の日時・場所

令和元年9月23日（月） 中津川小運動会

令和元年9月29日（日） 金吾様踊りでの奉納（大石神社）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

俵踊り（たわらおどり）

(2) 由来

昔は社寺等の落成式や祭典には催し物としてよく相撲（勸進相撲）が行われた。その際、寄進されたものを土俵上に積んで見物客に披露し、謝礼の意を表した。当時の寄進は大部分が米であったので、化粧まわしを締めた関取が相撲甚句を唄いながら円陣形をとって踊り、土俵祭りが済むと、飾ってあった米俵をリレー式に外に出した。この米俵を運ぶ格好を舞踊化したものが、俵踊りとして北方町地区に伝承されてきた。

(3) 構成等

もんぺ姿に豆絞りを頭に巻き、ラグビーボール大の俵を全員が持ち、唄、三味線、太鼓の音に合わせ、20人前後で踊る。唄は5番まであり、1番は2列縦隊、それ以外は、ほぼ円陣形で踊る。

米俵を積み上げる所作は、寄進された品に対する謝礼の意を表しているといわれている。

5 保存会や地域との連携の具体

中津川区・学校・保護者で構成する「中津川文化財少年団」があり、俵踊りを中津川区全体の郷土芸能の一つとして、正式に位置付けている。北方町のお師匠さんの全面的な支援の下、学校が事務局となり、俵踊りを伝承していく体制が整っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域、保護者が連携協力しながら俵踊りを継承していくために、事務局である教頭が、地域・保護者との連絡・調整役に当たっている。また学校でも、俵踊りを学習教材の一つとして総合的な学習の時間で扱ったり、「中津川文化財少年団」の活動を準教育活動として位置付けたりして、職員の協力も十分得られていることで、今後も継続して俵踊りを伝承していける体制が整っている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



練習風景



金吾様踊りでの奉納の様子

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【4年生児童】

- ・ お師匠さんが優しく教えてくださるし、褒めてくださるので嬉しい。

【3年生児童】

- ・ 去年は見ていただけだったけど、今年から俵踊りの練習を始められると思うとワクワクした。お師匠さんのアドバイスどおりに練習していくと、どんどん上手になるのが分かって嬉しかった。

【教職員】

練習が始まる前に、総合的な学習の時間を使って、俵踊りの歴史について学習したり、前年度の動画を見せたりしたことで、俵踊りへの思いを高めることができた。

子どもたちがお師匠さん方の指導を真剣に聞いて、真剣に取り組んでいる姿に感動した。また、保護者も子どもの頃から経験してきていることもあり、とても協力的である。ふるさとの郷土芸能を通して、生まれ育っている地域への誇りや愛着を子どもに育みたいという親の願いが根底にあるように思われる。

【北方町のお師匠さん】

毎年、子どもたちの指導に来ているが、本番を見ると、「しっかり受け継いでくれているな」と感動する。子どもの数が減り、今後が心配な面はあるが、この子どもたちが大人になって、親になる頃、自分の子どもに教えてくれる日が来るといいなと思う。

【地域の方から】

校庭から俵踊りの唄が聞こえると、「ああ、もう金吾様踊りの季節になったんだな。」と思います。あのかわいらしいもんぺ姿が、今年も見られるかと思うと元気になります。